

ナフサスポットのプレミアムが急上昇

=インターマンス・スプレッドが過去半年で最高値

オープン・スペック・ナフサ市場におけるスポット取引のプレミアムが急上昇している。台湾と韓国の石化メーカーがスポットで落札するカーゴの量を増やす一方、ナフサの供給量が絞られていることが原因とされる。構造的な問題との指摘もあり、供給量が増える場面では一時的に需給バランスが緩むものの、当面は強含みで推移する可能性が高そうだ。

ナフサの強さを示すブレント原油とのクラックスプレッドは、今月中旬と比べて約25%高の140^{ドル}/MT前半にまで高騰した。12月前半/1月前半のインターマンス・スプレッドも過去半年で最高値となる18^{ドル}/MT前後にまで拡大し、足元の需給が逼迫していることを示している。

韓国湖南石油化学は今週、2万5千^{トン}のカーゴ2杯(12月前半着)をC&F日本+21^{ドル}/MTで、LG化学も2万5千^{トン}のカーゴ(12月前半着)をC&F日本+20^{ドル}/MTで購入し、いずれも過去半年の最高値を更新した。

また、11月1日からナフサクラッカー3基の稼働率を80%から90%に引き上げる台塑石化有限公司(FPCC)は、12月前半麦寮(Mailiao)着のナフサ15万^{トン}をC&F日本+15~16^{ドル}/MTで落札したが、さらに追加購入も検討している。

ナフサプレミアムが高騰しているのは、アジアの旺盛な需要に対して供給量が不足しているためだ。ある業界関係者は「アジアの製油所稼働率が下がってナフサ生産量が減少していることに加えて、中東産油国からのナフサ輸出量が減っている。かなりの量が不足しているのかもしれない」と説明する。この関係者によれば、サウジアラムコがライトナフサに相当するA180を国内石化用に振り向け、アブダビ国営石油会社(ADNOC)もコンデンセートを他の用途に回しているため、今年と来年の中東諸国からアジアに輸出されるナフサは例年より年間100万^{トン}程度減る見込みだという。

「アジアのナフサ需給が引き締まったのは構造的な問題が背景にありそうだ。欧州からある程度のアープ玉が流れてこない、これからも足りなくなる」。この関係者はこのように説明した上で、定期修理で停止していた欧州の製油所が先週以降、順次立ち上がり始めたことから、12月後半着のナフサから需給が緩む可能性があるとの見方も示した。

アジアの需要家は11月上旬には韓国S-Oilと、下旬にはADNOCとターム契約交渉を開始する。S-Oilの交渉はソウルで11月2週目に開催される見通しだが、現時点で日程はまだ決まっていない。

別の関係者は「今のナフサ市況はいやな流れだ。このまま市況が緩まなければ高値のオファーを提示してくるだろう」と話している。

(小正路)